

洛東高(京都市山科区)の生徒が地元の歴史を調べた成果を発表する企画展「高校生が歩いて学んだ山科」が、21日から上京区今出川通大宮東入ルの市考古資料館で始まる。

あすから 上京・市考古資料館

山科の歴史調査  
洛東高生企画展

学校が所蔵する「山科古図」を前に展示解説の指導を受ける洛東高の生徒(京都市上京区・市考古資料館)



パネルや出土品、学校所蔵の古図も  
地域歩いた成果 目引く

また、昨年の「全国高校生歴史フォーラム」で優秀賞に輝いた安祥寺下寺の所在地を調べた生徒のリポートをまとめたパネルもある。

会場では中臣遺跡、安祥寺跡、山科本願寺跡の調査成果を示したパネルと、市埋蔵文化財研究所が保管する出土品を展示する。中でも同校が所蔵する山科本願寺の位置が描かれた色鮮やかな「山科古図」が目をひく。各遺跡から出土した土器や陶磁器、玉などのほか、当時入手が難しかったであろう輸入磁器や玉などが並ぶ山科本願寺跡の出土品は往時の隆盛をうかがわせる。

1月26日まで。月曜(祝日の場合は翌日)と12月28日～1月3日は休館。入場無料。同資料館 ☎075(432)3245。(仲屋聡)

同資料館との合同企画。地域の遺跡や社寺の実地調査に取り組む人文社会コースの2年生24人が参加した。

来年1月8、22日(ともに午後2～3時半)には、生徒が同資料館で展示内容を解説する。安祥寺について調べたという杉本漱一郎さん(17)は「展示を見に来た人に、身近な場所にすごい歴史があることを知ってほしい」と、熱心に練習に取り組んでいる。

従来の説とは違った場所にあったとする仮説を打ち立てた経緯を紹介する。

古文書を読み解き、北は「山川」、東を「諸羽山」、西を「山陵」、南が「興福寺(山階寺)」と記された寺域を現在の地元の地名と照合、